



巻頭言

混迷と多様化の時代にあって

財団法人 日本植物調節剤研究協会 理事
日本農業株式会社 取締役研究開発本部長

濱口 洋

植物調節剤研究協会が40周年、農業学会が30周年、農業取締法も半世紀を超え、なにかしら節目にもあるようだ。そして今ほど激動の時代も無いようにも感じる。

農家と消費者に役立つ製品の開発・上市を目標にひたすら走り続けてきたが、農業の変貌と共に、世界が激動する中であって、目標そのものが揺れ動き、確固とした信念に基づいた研究開発方針も立てにくくなった。ITの飛躍的な進歩で、世界中どこでも誰でも最新の情報を得ることが可能になり、技術の優位性も一休みしている間に奪われていく。我先に最も妙味のある分野に進出し、奪いあう。そして少しでも早く、少しでも異なった特徴を出し、僅かとも思える優位性の確保を図る。新たな競争時代の始まりだ。情報ネットワークの発達で、世界中を知識・情報習得の面で平等化したと理解できる。

インターネットの普及には目を見張るものがある。ところで、異分野、あるいは少し専門外の分野での基本的な知識はどうであろうか？ 農業の研究開発は異分野の研究者が集まり、世界の経済や農業事情を、しかも10年後の事情を予測しながら、それぞれの役割に携わる訳だが、BRICsは？ ノビエの学名は？ フロアブル剤とは？ 繁殖毒性試験とは？ 等の我々にとって、基本的とも思える問いに対して、少し離れた分野に従事する者には答える事ができない。手近に情報があり、いつでも容易に入手可能な利便性の反面で、研究が易きに流れ、幅広い知

識の基本的な習得がおざなりになっているような気がする。スピード時代の弊害ではないだろうか？

今の小学校教育は知らないが、私が円周率を教えていただいた頃の事を今になって思い出す。先生はボール紙で出来た円の面積はいくらかと質問された。無論長方形の面積の計算法は既に知っていたが、円の面積の計算法は知らない。先生は、円形のボール紙を、みかんを輪切りにした断面のように8等分し、その切片の円周側と、中心側を互い違いに並べ直し、長方形に近い形として、その面積を長方形の面積の計算法に類似させ、半径×円周の半分＝円の面積（近似値）を示された。即ち、円周率の近似値が求まる訳である。後は16等分、32等分と切片を細かくし、正確さを高められた。その結果が3.14である。一時間の授業だ。単に覚えるのではなく、手で体験し、考え数字を覚える教育だ。

ある安全性の大家に御助言をお願いした際、生命の維持、生殖、そして人間の尊厳としての精神、の三点を人は一番心配するのですよ。これが毒性評価の根源ですよと素人を諭す言葉を受けた。シンプルではあるが、間違いの無い、何よりも判りやすいお話であった。

この混迷と、多様化の時代にあって、一時的な流れに押し流されることなく、今一度腰を据え、人間と地球に優しい農業創製に励みたいと感じる次第である。